

地区セミナー 稚内で初の開催

地区セミナーは初開催の稚内・宗谷(11月5日・稚内市立図書館、参加30人)のほか、旭川(10月28日・旭川市立常盤中、同50人)と苫小牧・日高(12月2日・苫小牧市立美園小、同25人)でそれぞれ公開授業や実践発表を行った。

複式学級で新聞づくり

稚内

記念すべき第1回はアドバイザーの菊池安吉・旭川中学校長が講演、新学習指導要領のもとの新聞活用法を紹介した。実践報告では稚内市立富磯小の高橋正一教諭Ⅱ写真Ⅱが3、4年の複式学級で



NIE実践奮闘記

史朗

長年、小学校の中学年を担任することが多かった。常に抱いていた問題意識は「新聞をどう書かせるか」。社会見学や総合的な学習の時間でのまとめ活動に、新聞形式を取り入れる教員は多い。自分もかつてそうだったように、そうした新聞作成の指導法や評価について、我流でやってみ

三和



「新聞を読むこと」の往復を繰り返すことで、力

蘭越町立蘭越小教諭

まず、本物の新聞を題材に、「段組み」「見出し」「絵解き」「コラム」といった要素を蛍光ペンでマークキングすることでわか

段組みを3段、トップ記事と見出し、絵解き、コラムの3つの記事構成にして、「警察署見学新聞」を作成した。トップ記事は「見学で一番印象に残ったところ」、絵解

2往復目は、新聞記事本文の分析である。読売新聞のワークシートを使って記事の書き方について精読を繰り返した。そこには、インタビュートして生の声があることを

つかみ、次の復路である「消防署見学新聞」に活用させた。3往復目は、見出しの作り方。多くの記事を比較させたり、見出し部分を隠して考えたり、と見出し作成の要素を確認し、復路は「資料館見学新聞」に活用させた。一度に多くのものを指導するのではなく、少しずつ習得させていくことで、新聞全体のレベルアップがはかれるように展開してみた。そのことで、子どもたちはスムーズに身についていくことができたと思う。

2014年開催の第19回NIE全国大会は、徳島新聞を主管社に、徳島市で開かれることが11月9日の新聞協会博物館・NIE委員会で決まった。日程は7月下旬の予定。来年12年の全国大会は7月30、31日に福井市で、翌13年は7月25、26日に静岡市で、それぞれ開かれる。

読解と作成 反復し学習

りやすくする活動を行った。一面に対する見方が育ってきたところで新聞作成に活用させる。1往復目。

きは「写真でないとうまく伝わらないこと」、コラムは「感想」というように、記事の内容を具体的に指定することで、子どもたちは何をどう書けばよいかが見えてきた。

小学低学年は写真活用

旭川

道NIE研の研究大会を兼ねて道内最多の11回目を開催。旭川市立常盤中の小林教諭が公開授業で、学校行事で製作した新聞を他の生徒にわかりやすく説明する取り組みを披露した。報告では、同永山南中の高橋寛光教諭が、新聞に触れることで生徒の会話に記事の話題が出るようになった事例を報告したⅡ写真Ⅱ



の活動を紹介し、「低学年でも十分、新聞が活用できる」と強調した。札幌旭丘高の高瀬敏樹教諭は脱原発集会の記事から、各紙の取り上げ方や社説など、論調に大きな違いがあることに気付かせる取り組みを報告した。

公開授業で 投稿に挑戦

苫小牧

苫小牧市立美園小の大谷俊之教諭が日本語の「もったいない」を世界に広めたケニアの活動家ワンガリ・



マータイさんのメッセージビデオや道新の投稿記事を参考に、実際に投稿文に挑戦させる5年の道徳授業を公開したⅡ写真Ⅱ。報告では洞爺湖町立虹田小の富樫忠浩教諭が音読や書き写し、メモをもとに作文や話す力を養う模擬授業を紹介した。新冠中の今野実土里教諭は宇宙開発を主導してきた米国の成り立ちや産業構造を新聞から考える取り組みを披露した。

NIE全国大会 14年度は徳島で

白老東高新聞局などを指導した平野撰子元教諭はコラムを利用した小論文指導や、取材活動を通じて人間関係を学んでいく新聞局員の成長の様子を紹介した。